

November 5, 2021

【前日の為替概況】ドル円、原油価格下落と米長期金利の低下で 113.51 円まで弱含み

4日のニューヨーク外国為替市場でポンドは売りが優勢。英中銀金融政策委員会（MPC）はこの日、政策金利（0.10%）と資産買取プログラム（8950億ポンド）の現状維持を決定。市場では政策金利の0.25%への引き上げを予想する向きも多かったため、結果公表後は英長期金利の低下とともにポンド売りで反応した。ポンドドルは10月1日以来の安値となる1.3471ドルまで大きく下押し。ポンド円も一時153.12円と10月11日以来の安値まで急落した。

ドル円は反落。終値は113.76円と前営業日NY終値（114.01円）と比べて25銭程度のドル安水準だった。ポンド円を中心にクロス円が全面安となったことにつれて売りが先行した。米10年債利回りが1.50%台まで急低下したことも相場の重しとなり、一時113.51円まで下押し。もっとも、その後はクロス円の下げが一服したことで113.70円台まで下値を切り上げた。

ユーロドルは反落。終値は1.1554ドルと前営業日NY終値（1.1612ドル）と比べて0.0058ドル程度のユーロ安水準だった。NY勢の参入後に1.1570ドル台まで上昇する場面があったが、一巡後はポンドドルの下落につれて1.1528ドルまで売りに押された。ただ、10月12日につけた年初来安値の1.1524ドルがサポートとして意識されると売りも一服。再び1.15ドル台半ばまで買い戻されるなど、NY時間に限ると方向感を欠いた一進一退の動きだった。

ユーロ円は反落。終値は131.44円と前営業日NY終値（132.38円）と比べて94銭程度のユーロ安水準だった。ポンド円を中心にクロス円が軒並み安となった影響を受けて一時は131.02円まで値を下げたが、その後はドル円や他のクロス円と同じく下げ止まった。

【本日の東京為替見通し】ドル円、原油価格下落と米10年債利回り低下で上値が重い展開か

本日の東京外国為替市場のドル円は、米10月雇用統計を控えて動きづらい展開の中、原油価格が一時78ドル台まで下落し、米10年債利回りが1.50%台まで低下したことで、上値が重い展開が予想される。

世界的なインフレ高進の根幹にあった原油価格の高騰にブレーキがかかる可能性が高まったことで、インフレ高進が「持続的」ではなく「一時的（transitory）」となる可能性が警戒されつつある。

昨日の石油輸出国機構（OPEC）加盟・非加盟の主要産油国で構成する「OPEC プラス」閣僚会議では、日量40万バレルの生産引き上げ計画が維持された。しかし、サウジアラビア国営テレビが同国の産油量が12月には日量1000万バレルを超える見通しと報じたことを背景に、先月85ドル台に乗せたWTI原油先物価格は78ドルまで大きく値を下げた。

ドル円のテクニカルポイントは、一目・転換線113.85円を軸にして、上値は昨日高値114.28円、下値は10月28日の安値113.26円となる。

ドル円のオーダー状況は、上値には、114.00円にドル売りオーダー、10日のNYカットオプション、114.20-30円に断続的にドル売りオーダーが控えている。下値には、113.70円に本日のNYカットオプション、113.40-50円に断続的にドル買いオーダーが控えている。

本日発表される米10月雇用統計の予想は、非農業部門雇用者数が前月比45.0万人の増加、失業率は4.7%となっている。

先日の米連邦公開市場委員会（FOMC）では、月額1200億ドル（米国債800億ドル、住宅ローン担保証券400億ドル）の資産購入を、11月から毎月150億ドルずつ（米国債100億ドル、住宅ローン担保証券MBS50億ドル）減額する方針が示された。

しかし、11月と12月に購入を縮小した後は毎月同様の資産購入減速が適切になる可能性が高いと委員会は判断するが、経済見通しの変化に応じて妥当だと判断される場合は、購入ペースを調整する用意がある、と表明されている。すなわち、11月は1050億ドル（米国債700億ドル、MBS350億ドル）、12月は900億ドル（米国債600億ドル、MBS300億ドル）と減額されるものの、来年以降は、本日の米10月雇用統計や原油価格の動向を受けたインフレ率などで、減額ペースが加速するの否か調整されることになる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:30 ◇ 9月家計調査（消費支出、予想：前年比▲3.9%）
- 08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）

<海外>

- 09:30 ◎ 豪準備銀行（RBA）四半期金融政策報告
- 16:00 ◎ 9月独鉱工業生産（予想：前月比 1.0%/前年同月比 1.3%）
- 16:45 ◇ 9月仏鉱工業生産（予想：前月比横ばい）
- 17:30 ◎ ホルツマン・オーストリア中銀総裁、講演
- 17:30 ◎ デギンドス欧州中央銀行（ECB）副総裁、講演
- 18:00 ◎ センテノ・ポルトガル中銀総裁、講演
- 19:00 ◎ 9月ユーロ圏小売売上高（予想：前月比 0.3%/前年比 1.5%）
- 20:00 ◎ パネッタ ECB 専務理事、講演
- 21:15 ◎ ラムステン英中銀（BOE）副総裁、ピル英中銀金融政策委員会（MPC）委員、講演
- 21:30 ☆ 10月カナダ雇用統計（予想：新規雇用者数変化 5.00 万人/失業率 6.8%）
- 21:30 ☆ 10月米雇用統計（予想：非農業部門雇用者数変化 45.0 万人/失業率 4.7%/平均時給、前月比 0.4%/前年比 4.9%）
- 22:00 ◎ テンレイロ英 MPC 委員、講演
- 23:00 ◇ 10月カナダ Ivey 購買部協会景気指数
- 6日 04:00 ◇ 9月米消費者信用残高（予想：159 億ドル）
- ロシア（振替休日）、休場
- 7日 米国が冬時間に移行

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

4日 13:05 黒田日銀総裁

「岸田首相と金融政策や内外の経済・金融情勢について話した」

「日銀のコロナプログラムなどについて説明した」

「日銀、物価目標に向けたYCCをコロナ対策終了後も継続」

4日 21:02 英中銀金融政策委員会(MPC)議事要旨

「0.10%の据え置きを賛成7・反対2で決定」

「国債買い入れ枠の8750億ポンドの据え置きを賛成6・反対3で決定」

「社債買い入れ枠を200億ポンドの据え置きを全会一致で決定」

「インフレのピークは2022年4-6月期に4.80%(前回2022年1-3月期4.02%)」

「第3四半期GDP見通しを前回から1%前後下方修正」

「インフレに対する上向きの圧力は時間とともに消散すると予想」

「CPIインフレを持続的に2%の目標に戻すには、今後数カ月にわたって金利を引き上げる必要」

「中期的に持続的な2%のインフレ目標を達成するためには、金融政策のある程度の引き締めが必要となる可能性」

4日 21:44 ベイリー英中銀(BOE)総裁

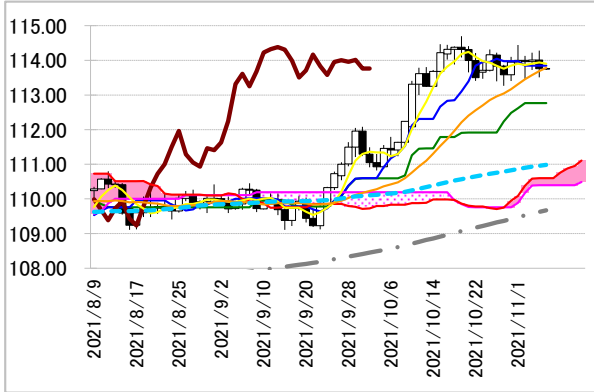
「金融政策委員会(MPC)は中期的なインフレ期待は依然として十分に固定されいると判断」

「エネルギー価格に何が起こるかは非常に不確実であり、重大なリスクがある」

「失業率は短期的には大幅に上昇するとは予想していないが、不確実性が高い」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

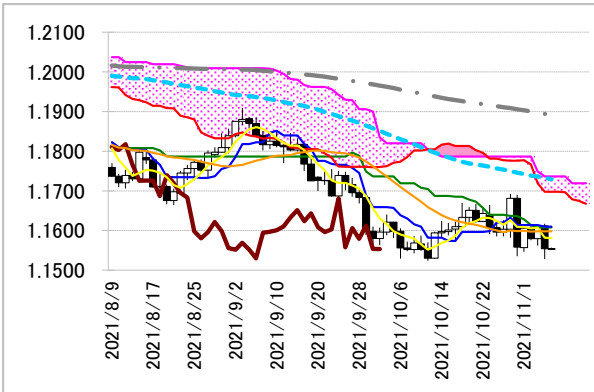


<ドル円=10/20 高値を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯している。しかし、抱き線で反落し、転換線を下回って引けていることで続落の可能性が示唆されている。

本日は、10月20日の高値を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同水準を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス2	115.51(2017/3/10 高値)
レジスタンス1	114.70(10/20 高値=年初来高値)
前日終値	113.76
サポート1	113.26(10/28 安値)
サポート2	112.76(日足一目均衡表・基準線)

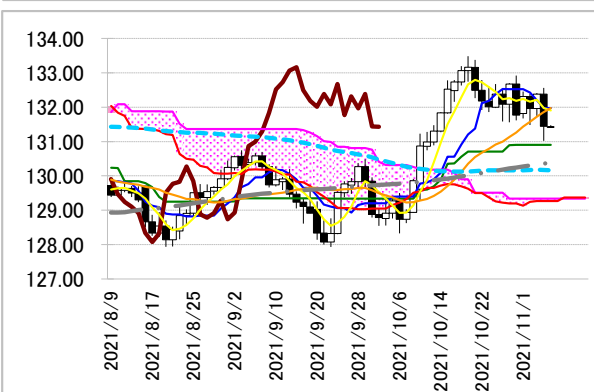


<ユーロドル=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を上回っているものの、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、売りシグナルが優勢な展開となっている。抱き線で反落し、転換線を下回って引けていることで続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.1610(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.1554
サポート1	1.1524(10/12 安値=年初来安値)

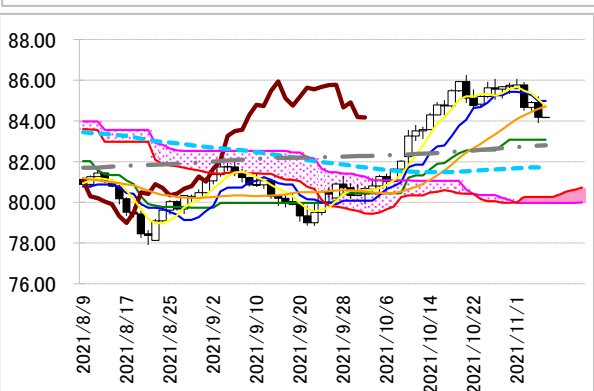


<ユーロ円=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

大陰線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯中。しかし、抱き線で反落し、転換線を下回って引けており続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	131.97(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	131.44
サポート1	130.91(日足一目均衡表・基準線)



<豪ドル円=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯中。しかし、抱き線で反落し、転換線を下回って引けており続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	84.98(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	84.18
サポート1	83.08(日足一目均衡表・基準線)

